

1

旅行業法及びこれに基づく命令

1. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。 (4点×25問)

(1) 次のa～dの記述のうち、法第1条(目的)に定められているものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行業務に関する取引の公正の維持
- b. 旅行の安全の確保
- c. 旅行業を営む者の認可制度の実施
- d. 旅行者の利便の増進

ア. a. b. c イ. a. b. d ウ. a. c. d エ. b. c. d

(2) 次の行為のうち、報酬を得て事業として行う場合、旅行業等の登録が必要でないものはどれか。

- ア. レコード販売店が、他人の経営するホテルのために、音楽コンサート入場と当該ホテルの宿泊を伴う旅行を実施する行為。
- イ. バス会社が、自らが所有するバスを使用して他人の経営する旅館を利用した宿泊を伴う旅行を実施する行為。
- ウ. 添乗員派遣会社が、旅行者のために、他人の経営するバスを利用して、日帰り旅行を計画、実施し、添乗をする行為。
- エ. 旅館案内所が旅行業者のために自己の契約する旅館を手配する行為。

(3) 旅行業の登録に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業の登録の有効期間は、登録の日から起算して3年である。
- イ. 更新登録の申請については、有効期間の満了の日の3箇月前までに提出しなければならない。
- ウ. 旅行業者等で、その主たる営業所の所在地を変更したときは、その日から21日以内に、その旨を登録行政庁に届け出なければならない。
- エ. 有効期間の更新の登録がなされたときは、その登録の有効期間は、従前の登録の有効期間の満了の日の翌日から起算される。

(4) 登録業務範囲に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．第 2 種旅行業者は、一般旅行業務取扱主任者を選任している営業所においては、本邦外の主催旅行の実施に係る旅行業務を取り扱うことができる。
- イ．第 2 種旅行業者は、国内旅行業務取扱主任者を選任している営業所においては、本邦外の手配旅行に係る旅行業務を取り扱うことができる。
- ウ．第 3 種旅行業者は、一般旅行業務取扱主任者を選任している営業所においては、本邦外の手配旅行を受託販売することができる。
- エ．第 1 種旅行業者は、国内旅行業務取扱主任者を選任している営業所においては、本邦内の主催旅行の実施に係る旅行業務を取り扱うことができない。

(5) 旅行業等の登録申請に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．第 1 種旅行業への変更登録の申請をしようとする旅行業者は、国土交通大臣に変更登録申請書を提出しなければならない。
- イ．第 2 種旅行業（営業所に一般旅行業務取扱主任者を選任する予定の場合）への変更登録の申請をしようとする旅行業者は、国土交通大臣に変更登録申請書を提出しなければならない。
- ウ．第 3 種旅行業への変更登録の申請をしようとする旅行業者は、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。
- エ．旅行業者代理業の新規登録の申請をしようとする者は、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録申請書を提出しなければならない。

(6) 次の記述のうち、登録の拒否事由に該当しないものはどれか。

- ア．法人であって、その役員の中に、登録申請の 4 年前に旅行業務に関し不正な行為をした者があ
るもの
- イ．第 2 種旅行業を営もうとする者であって、その基準資産額が1,000万円である者
- ウ．旅行業者代理業を営もうとする者であって、その営業所ごとに法で定める旅行業務取扱主任者を
確実に選任すると認められない者
- エ．旅行業者代理業を営もうとする者であって、その代理する旅行業を営む者が 2 以上であるもの

(7) 営業保証金に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．旅行業者代理業者は、営業保証金を供託し、その旨を登録行政庁に届け出た後でなければ、その
事業を開始することができない。
- イ．営業保証金の額は、前事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額、当該旅行業者の
営業所の数、当該旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者の営業所の数に応じて算定される。
- ウ．旅行業者は、毎事業年度終了後100日以内に、その事業年度における旅行業務に関する旅行者と
の取引の額を登録行政庁に報告しなければならない。
- エ．第 2 種旅行業の登録を受けた者の営業保証金の最低額は700万円と定められている。

(8) 旅行業務取扱主任者が管理・監督しなければならない職務として定められているものについて、次の a ~ d のうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア ~ エのうちどれか。

- a . 旅行に関する苦情の処理
- b . 広告の実施
- c . 法第12条の5の規定による書面の交付
- d . 旅行業務に従事する者に対する研修

ア . a . b . c イ . a . c . d ウ . b . c . d エ . a . b . c . d

(9) 旅行業務取扱主任者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア . 旅行者等は、本邦内の旅行を取り扱う営業所においては、国内旅行業務取扱主任者試験に合格した者のみを、本邦外の旅行を取り扱う営業所においては、一般旅行業務取扱主任者試験に合格した者のみを、それぞれ選任することができる。
- イ . 旅行業務取扱主任者は、他の営業所の旅行業務取扱主任者となることはできない。
- ウ . 旅行者等は、営業所ごとに、法の規定に適合する1人以上の旅行業務取扱主任者を選任しなければならない。
- エ . 旅行者等は、その営業所の旅行業務取扱主任者として選任した者のすべてが欠けるに至ったときは、新たに選任するまでの間は、その営業所において旅行業務に関し旅行者と契約を締結してはならない。

(10) 旅行業務の取扱料金（主催旅行に係るものを除く。）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア . 旅行業務の取扱いの料金は、契約の種類及び内容を問わず、すべて定額とし、旅行者にとって明確なものでなければならない。
- イ . 旅行者代理業者は、所属旅行者が定めた旅行業務の取扱いの料金を使用しない場合は、自らが定めた当該料金について所属旅行者の承諾を得なければならない。
- ウ . 旅行者は、事業の開始前に、旅行者から収受する旅行業務の取扱いの料金を定め、その営業所において旅行者に見やすいように掲示しなければならない。
- エ . 第3種旅行者は、事業の開始前に旅行者から収受する旅行業務の取扱いの料金を定め、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事の認可を受けなければならない。

(11) 旅行業約款に関する次の a ~ d の記述のうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア ~ エのうちどれか。

- a . 保証社員である旅行者にあっては、その所属する旅行業協会の名称又は所在地が変更したときは、速やかに登録行政庁の認可を受けなければならない。
- b . 主催旅行を実施する旅行者にあっては、旅行者の責任に関する事項等所定の事項を主催旅行契約と主催旅行契約以外の契約との別に応じ、明確に定めなければならない。
- c . 国土交通大臣が定めた標準旅行業約款と同一の旅行業約款を使用するときは、旅行者は、その旅行業約款については認可を受けたものとみなされる。
- d . 旅行者等は、旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。

ア . a . b . c イ . a . b . d ウ . a . c . d エ . b . c . d

(12) 法第12条の4（取引条件の説明）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア . 旅行者等は、旅行業務に関し旅行者と契約を締結しようとするときは、旅行者が依頼しようとする旅行業務の内容を確認した上、国土交通省令で定めるところにより、その取引の条件について旅行者に説明しなければならない。
- イ . 旅行者等は、主催旅行契約を締結しようとする場合にあっては、旅行者が旅行者等に支払うべき対価及びその収受の方法について、旅行者に説明しなければならない。
- ウ . 旅行者等は、主催旅行契約以外の旅行業務に関する契約（旅行に関する相談に応ずる行為に係る契約を除く。）を締結しようとする場合は、旅行者に旅行業務の取扱いの料金に関する事項を説明しなければならない。
- エ . 旅行者等は、主催旅行契約を締結しようとするときは、旅程管理業務を行う者が同行しない場合にあっては、旅行地における主催者との連絡方法を説明しなければならない。

(13) 法第12条の5（書面の交付）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア . 旅行者は、旅行に関する相談に応ずる行為に係る旅行業務について旅行者と契約を締結した場合にあっては、書面の交付を要しない。
- イ . 旅行者等が主催旅行契約を締結した場合にあって、外務員が書面を交付する場合には、当該外務員の氏名並びにその所属する営業所の名称及び所在地を記載しなければならない。
- ウ . 旅行者等は、主催旅行契約以外の旅行業務に関する契約を締結した場合、旅行者が旅行者等に支払うべき対価に含まれていない旅行に関する経費であって旅行者が通常必要とするものは書面に記載することを要しない。
- エ . 旅行者等が主催旅行契約を締結した場合にあって、主催者以外の者が主催者を代理して契約を締結した場合にあっては、その旨並びに当該代理人の氏名又は名称及び住所並びに登録番号を記載しなければならない。

(14) 外務員に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．外務員は、外務員としての業務を行うときは、旅行者から請求があった場合にのみ外務員の証明書を提示すればよい。
- イ．旅行業者等は、営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者に、外務員の証明書を携帯させなければ、その者を外務員としての業務に従事させてはならない。
- ウ．外務員とは、営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者のうち、その旅行業者等の代表者及び役員以外の者をいう。
- エ．旅行業者代理業者の外務員の証明書は、その所属旅行業者が発行しなければならない。

(15) 主催旅行の広告に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．主催旅行の募集広告には、旅程管理業務を行う者の氏名を表示しなければならない。
- イ．主催者以外の者の氏名又は名称を表示する場合にあっては、文字の大きさ等に留意して、主催者の氏名又は名称の明確性を確保すること。
- ウ．主催旅行の参加者数があらかじめ主催者が定める人員数を下回った場合に当該主催旅行を実施しないこととするときは、その旨及び当該人員数を表示しなければならない。
- エ．旅行者が旅行業者等に支払うべき対価が当該主催旅行の出発日より異なる場合において、その最低額を表示するときは、併せてその最高額を表示すること。

(16) 旅行業者等が旅行業務について広告するとき、誇大表示をしてはならない事項として定められているものについて、次のa～dのうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a．旅行地の景観、環境その他の状況に関する事項
- b．旅行中の旅行者の負担に関する事項
- c．旅行者が旅行業者等に支払うべき対価に関する事項
- d．旅行者に対する損害の補償に関する事項

ア．a．b．c イ．a．c．d ウ．b．c．d エ．a．b．c．d

(17) 標識に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．旅行業者等の標識には、その営業所の住所並びに当該営業所の責任者の氏名を記載しなければならない。
- イ．旅行業者等以外の者は、国土交通省令で定める様式の標識又はこれに類似する標識を掲示してはならない。
- ウ．旅行業者の標識には、所属する旅行業者代理業者がある場合、旅行業者は当該旅行業者代理業者のすべての氏名又は名称を記載しなければならない。
- エ．旅行業者代理業者の標識は、その所属旅行業者と同一の様式とされている。

(18) 主催旅行の円滑な実施のための措置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業者は、本邦外の旅行にあっては、旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合における代替サービスの手配及び当該サービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなければならない。
- イ．旅行業者は、旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなければならない。ただし、本邦内の旅行であって、契約の締結の前に旅行者にこれらの措置を講じない旨を説明し、かつ、当該旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付した場合を除く。
- ウ．旅行業者は、旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために、旅行に関する計画の作成時において、すべての予約を完了していなければならない。
- エ．旅行業者は、旅行に関する計画における2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関する指示をしなければならない。

(19) 禁止行為に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業者代理業者は、当該所属旅行業者の承諾を得る場合を除き、その営業所に掲示した旅行業務の取扱いの料金を超えて料金を収受する行為をしてはならない。
- イ．旅行業者等は、旅行業務に関し取引をする者に対し、その取引に関する重要な事項について、故意に事実を告げず、又は不実のことを告げる行為をしてはならない。
- ウ．旅行業者等は、旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行を不当に遅延する行為をしてはならない。
- エ．旅行業者等又はその代理人、使用人その他の従業者は、その取り扱う旅行業務に関連して、旅行者に対し、旅行地において施行されている法令に違反するサービスの提供を受けることをあっ旋又はその提供を受けることに関し便宜の供与を行う旨の広告をしてはならない。

(20) 主催旅行の受託契約に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業者は、他の旅行業者が実施する主催旅行について、受託契約を締結したときは、旅行業者代理業の登録を受けなくても、委託旅行業者を代理して主催旅行契約を締結することができる。
- イ．委託旅行業者及び受託旅行業者は、受託契約において、委託旅行業者を代理して主催旅行契約を締結することができる受託旅行業者又はその受託旅行業者代理業者の営業所を定めておかなければならない。
- ウ．旅行業者代理業者は、その所属旅行業者の承諾を得た場合は、当該旅行業者代理業者は直接他の旅行業者と受託契約を締結することができる。
- エ．受託旅行業者は、委託旅行業者の旅行業約款を旅行者の見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。

(21) 国土交通大臣が旅行業者等に命ずることができる措置（業務改善命令）に具体的に明記されているものについて、次の a～d のうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a . 旅行業務取扱主任者を解任すること
- b . 主催旅行の円滑な実施のための措置を確実に実施すること
- c . 主催旅行に関し旅行者から収受する対価を変更すること
- d . 旅行業約款を変更すること

ア . a . b . c イ . a . c . d ウ . b . c . d エ . a . b . c . d

(22) 国土交通大臣が旅行業者等に対し、業務の全部若しくは一部の停止を命じ、又は登録を取り消すことができる事項に関する次の a～d のうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a . 不正の手段により有効期間の更新の登録又は変更登録を受けたとき。
- b . 旅行業の登録を受けてから 6 箇月以内に事業を開始せず、又は引き続き 6 箇月以上事業を行っていないと認めるとき。
- c . 破産者で復権を得ないものであることが判明したとき。
- d . 旅行業者等の役員が禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から 5 年を経過していないことが判明したとき。

ア . a . b . c イ . a . c . d ウ . b . c . d エ . a . b . c . d

(23) 旅行業協会の業務に関する次の a～d のうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a . 旅行業務に関し旅行者及び旅行に関するサービスを提供する者に対する研修
- b . 旅行業務に関し社員である旅行業者又は当該旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者と取引をした者に対しその取引によって生じた債権に関し弁済をする業務
- c . 旅行業務の適切な運営を確保するための旅行業者等に対する指導
- d . 旅行業務に関する取引の公正の確保又は旅行業及び旅行業者代理業の健全な発達を図るための調査、研究及び広報

ア . a . b . c イ . a . c . d ウ . b . c . d エ . a . b . c . d

(24) 旅行業協会が行う苦情の解決に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業協会は、旅行者から申出があった旅行者等が取り扱った旅行業務に関する苦情の解決について必要があると認めるときは、当該旅行者等に対し、文書若しくは口頭による説明を求め、又は資料の提出を求めることができる。
- イ．旅行業協会は、社員以外の旅行者等が取り扱った旅行業務に関する苦情についても、旅行者から解決の申出があったときは、その相談に応じ、申出人に必要な助言をし、当該苦情に係る事情を調査するとともに、当該旅行者等に対し当該苦情の内容を通知してその迅速な処理を求めなければならない。
- ウ．旅行業協会は、旅行に関するサービスを提供する者から苦情について解決の申出があった場合においても、その相談に応じなければならない。
- エ．旅行業協会は、苦情についての解決の申出、当該苦情に係る事情及びその解決の結果について、社員及び社員以外の旅行者等に周知させなければならない。

(25) 弁済業務保証金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．保証社員は、その旅行業約款に営業保証金を供託していないことを明示することを要しない。
- イ．保証社員と旅行業務に関し取引をした旅行者は、その取引によって生じた債権に関し、旅行業協会が供託している弁済業務保証金について、旅行者以外の権利を有する者に先立ちその債権の弁済を受ける権利を有する。
- ウ．保証社員は、法第6条の4第1項の変更登録を受けた場合において、その弁済業務保証金分担金の額が増加することとなるときは、変更登録を受けた日から14日以内に、その増加することとなる額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- エ．旅行者は、旅行業協会の保証社員となったときは、供託した営業保証金を取りもどすことができる。

2

旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。 (4点×20問)

(1) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「電子承諾通知」とは、契約の申込みに対する承諾の通知であって、情報通信の技術を利用する方法のうち旅行業者又は旅行業者の主催旅行を代理して販売する旅行業者等が使用する電子計算機等と旅行者が使用する電子計算機等とを接続する電気通信回線を通じて送信する方法により行うものをいう。
- イ. 旅行業者が約款の定める事項について法令に反せず、かつ、旅行者の不利にならない範囲で書面により特約を結んだときは、その特約は約款の規定に優先する。
- ウ. 「主催旅行」とは、旅行業者が、あらかじめ、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これに参加する旅行者を広告その他の方法により募集して実施する旅行をいう。
- エ. 「カード利用日」とは、旅行者又はクレジットカード会社が主催旅行契約に基づく旅行代金等の支払を履行すべき日をいう。

(2) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「契約の締結」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者から契約の申込時に、当該主催旅行の参加に際し、特別な配慮を必要とする旨の申し出があったときは、旅行業者は可能な範囲内でその申し出に応じなければならない。
- イ. 旅行業者は、当該旅行業者の業務上の都合がある場合であっても、契約の締結を拒否することができない。
- ウ. 旅行業者が電話その他の通信手段による契約の予約を受け付け、承諾の旨を通知した後、旅行者が旅行業者の定めた期間内に申込金を提出しない場合又は会員番号等を通知しない場合は、旅行業者は、予約はなかったものとして取り扱う。
- エ. 旅行業者に通信契約の申込みをしようとする旅行者は、申込みをしようとする主催旅行の名称、旅行開始日、会員番号その他の事項を旅行業者に通知しなければならない。

(3) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「契約締結の拒否」に関して、旅行業者が契約の締結に応じない場合について述べた次のa～dのうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 通信契約を締結しようとする場合であって、旅行者の有するクレジットカードが無効である等、旅行者が旅行代金等に係る債務の一部又は全部を提携会社のカード会員規約に従って決済できないとき。
- b. 応募旅行者数が募集予定数に達したとき。
- c. 旅行者が他の旅行者に迷惑を及ぼし、又は団体行動の円滑な実施を妨げるおそれがあるとき。
- d. 旅行業者があらかじめ明示した性別、年齢、資格、技能その他の参加旅行者の条件を満たしていないとき。

ア. a . b . c イ. a . c . d ウ. b . c . d エ. a . b . c . d

(4) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「契約書面、確定書面」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約書面又は確定書面の交付に代えて、旅行者の使用する通信機器に情報通信の技術を利用する方法により当該書面に記載すべき事項を提供したときは、旅行者の承諾を得たものとする。
- イ. 旅行業者は、確定書面の交付前であっても、手配状況の確認を希望する旅行者から問い合わせがあったときは、迅速かつ適切にこれに回答しなければならない。
- ウ. 契約書面には、旅行日程、旅行サービスの内容その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載しなければならない。
- エ. 確定書面を交付した場合には、旅行業者が手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、当該確定書面に記載するところに特定される。

(5) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「契約の変更」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、主催旅行を実施するに当たり利用する運送又は宿泊機関の適用運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により、主催旅行の募集の際に明示した時点において有効なものとして公示されている適用運賃・料金に比べて、通常想定される程度を大幅に超えて増額される場合においては、その増額される金額の範囲内で旅行代金の額を増額することができる。
- イ. 旅行業者は、当該旅行業者の関与し得ない事由が生じ、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ないときに、旅行サービスの内容を変更する場合においては、あらかじめ旅行者の承諾を得なければならない。
- ウ. 旅行業者は、宿泊機関の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、主催旅行契約の成立後に旅行者の都合により旅行者の数が減少し旅行代金の額が増額することとなったときは、契約書面に記載したところにより旅行代金の額を増額することができる。
- エ. 利用運送機関が運送サービスの提供を行っているにもかかわらず、座席の不足が発生したことにより、主催旅行契約の内容の一部を変更し、旅行の実施に要する費用が増加した場合は、旅行業者は、当該旅行業者の手配に過失がない場合に限り、その範囲内において旅行代金の額を増額することができる。

(6) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)において、旅行者が旅行開始前に契約を解除する場合、取消料の支払いが不要であることを述べた次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行者の責に帰すべき事由により、契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能となったとき。
- イ．契約内容につき、変更補償金の支払いが必要となる変更該当しないもので、かつ重要でない変更が生じたとき。
- ウ．旅行者が旅行者に対し、契約書面に定める日までに確定書面を交付しなかったとき。
- エ．天災地変、戦乱、暴動、運送・宿泊機関等の旅行サービス提供の中止、官公署の命令その他の事由により、旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となり、又は不可能となるおそれが極めて大きいとき。

(7) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)において、旅行者の旅行開始前の解除に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行者は、旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったことにより契約を解除しようとするときは、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって、国内旅行にあつては13日目(日帰り旅行を除く)に当たる日より前に、旅行を中止する旨を旅行者に通知しなければならない。
- イ．旅行者が契約書面に記載する期日までに旅行代金を支払わないときは、当該期日の翌日において旅行者が契約を解除したものとし、旅行者は、旅行者に対し、取消料に相当する額の違約料を支払わなければならない。
- ウ．スキーを目的とする国内日帰り旅行において、降雪量の不足によりスキーができないおそれが大きいとき、旅行者は、旅行者に対し、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって3日目に当たる日より前に旅行を中止する旨を旅行者に通知しなければならない。
- エ．旅行者が、旅行者があらかじめ明示した参加旅行者の条件を満たしていないことが判明した場合は、旅行者は旅行者に理由を説明して、旅行開始前に契約を解除することができる。

(8) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)において、旅行者の旅行開始後の解除に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行者は、旅行者が旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員の指示に従わないなど団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるときは、添乗員の判断により旅行者に理由を説明することなく、契約の一部を解除することができる。
- イ．旅行者は、旅行者が病気により旅行の継続に耐えられないときは、旅行者に理由を説明して、契約の一部を解除することができる。
- ウ．旅行者は、旅行地で発生した天災により旅行開始後に契約の一部を解除した場合において、旅行代金のうち旅行者がいまだその提供を受けていない旅行サービスに係る部分を旅行者に払い戻さなければならない。
- エ．旅行者は、運送機関の旅行サービス提供の中止により、旅行の継続が不可能となったときは、旅行者に理由を説明して、契約の一部を解除することができる。

(9) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「旅行代金の払戻し」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。(通信契約を締結した場合を除く。)

- ア. 6月7日出発の国内主催旅行において、旅行者の都合により、6月6日に契約が解除された場合、旅行者に対して払い戻すべき金額が生じたときは、旅行業者は6月13日までに旅行者に対し当該金額を払い戻さなければならない。
- イ. 旅行開始後に旅行業者の関与し得ない事由により、旅行の継続が不可能となり旅行業者が契約を解除した場合において、旅行を中止したためにその提供を受けなかった旅行サービスの提供に対して取消料を支払わなければならないときは、取消料を旅行者の負担とすることはできない。
- ウ. 旅行開始後に、旅行業者の過失により契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能となったため、旅行者が契約を解除した場合において、旅行者に対し払い戻されるべき金額を所定の期日までに払い戻したときは、旅行者は損害賠償請求権を行使することはできない。
- エ. 旅行者が旅行開始後において旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員の指示に従わず団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるため、旅行業者が、契約を解除した場合においては、旅行者がいまだ提供を受けていない旅行サービスがあったとしても、当該旅行代金の払い戻しは要しない。

(10) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「旅程管理」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅程管理業務その他当該主催旅行に付随して当該旅行業者が必要と認める業務を添乗員に行わせることができる。
- イ. 旅行者は、旅行開始後旅行終了までの間において、団体で行動するときは、旅行を安全かつ円滑に実施するための旅行業者の指示に従わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、旅行中やむを得ず契約内容を変更せざるを得ないときは、代替サービスの手配を行わなければならないが、この際に、旅行サービスの内容を変更するときは、変更後の旅行サービスが当初の旅行サービスと同様のものとなるように努めることなど、契約内容の変更を最小限にとどめるよう努力しなければならない。
- エ. 添乗員その他の者が旅程管理業務に従事する時間帯は、原則として7時から19時までである。

(11) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「旅程保証」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者の手配代行者の明らかな過失により、契約書面に記載した旅館を手配できなかったため、契約書面に記載のない別の旅館を手配した場合は、旅行業者は変更補償金の支払いを要しない。
- イ. 旅行業者が変更補償金を支払った後に、当該変更について当該旅行業者の過失責任が明らかになった場合には、旅行業者は、既に支払った変更補償金に加えて、支払うべき損害賠償金の額も支払わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、契約内容の重要な変更が生じた場合において、旅行者が旅行開始前に契約を解除したときは、変更補償金を支払うことを要しない。
- エ. 旅行業者が変更補償金を支払うこととなったときは、旅行終了日の翌日から起算して30日以内に支払わなければならない。

(12) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「旅行業者の責任」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業者は、主催旅行契約の履行に当たって、旅行業者が手配を代行させた者が過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害を賠償する責任を負う。
- イ．旅行業者は、主催旅行契約の履行に当たって旅行業者の過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、損害発生の翌日から起算して、国内旅行にあっては14日以内に、海外旅行にあっては21日以内に旅行業者に対して通知があったときに限り、所定の限度で、その損害を賠償する責任を負う。
- ウ．旅行業者は、主催旅行契約の履行に当たって旅行業者の故意又は過失により旅行者に損害(手荷物について生じた損害を除く。)を与えたときは、旅行者が損害発生の翌日から起算して2年以内に旅行業者に対して通知したときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- エ．旅行業者は、主催旅行契約の履行に当たって旅行業者の過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、旅行業者に故意又は重大な過失がある場合を除き、旅行者の手荷物1個につき15万円を限度として賠償する。

(13) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「特別補償及び別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．旅行業者は、旅行者が主催旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、旅行業者の過失があった場合に限り、主催旅行契約の部別紙特別補償規程で定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- イ．主催旅行参加中の旅行者が、細菌性食物中毒になり入院した場合、旅行業者は、当該旅行者に対し入院見舞金を支払わなければならない。
- ウ．主催旅行日程に定める最後の運送・宿泊機関等が航空機であり、添乗員等が同行しない主催旅行に参加した旅行者が、当該航空機の到着空港のタクシー乗り場において、転倒し身体に傷害を被り入院した場合は、旅行業者は、旅行者に対し入院見舞金を支払わなくてよい。
- エ．旅行業者の過失により、旅行者が主催旅行参加中に死亡した場合は、その過失責任に基づく損害賠償金に加えて、死亡補償金を支払わなければならない。

(14) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業者が支払うべき携帯品損害補償金の額は、旅行者1名に対して1主催旅行につき15万円をもって限度とする。ただし、損害額が旅行者1名について1回の事故につき3,000円を超えない場合は、当該旅行業者は、損害補償金を支払わない。
- イ．旅行業者は、旅行者が主催旅行参加中の事故により身体に傷害を被り、その直接の結果として、事故の日から180日以内に死亡した場合は、旅行者1名につき、海外旅行においては2,000万円、国内旅行においては1,000万円を死亡補償金として旅行者の法定相続人に支払う。ただし、当該旅行者について、既に支払った後遺障害補償金がある場合は、補償金額から既に支払った金額を控除した残額を支払う。
- ウ．旅行業者は、補償対象品の1個又は1対についての損害額が15万円を超えるときは、そのものの損害額を15万円とみなして携帯品損害補償金を支払う。
- エ．旅行業者は、旅行者1名について入院見舞金と死亡補償金を重ねて支払うべき場合には、その合計額を支払う。

(15) 標準旅行業約款(主催旅行契約の部)「別紙特別補償規程」に基づく補償金の支払い対象とならないものについて述べた次のa～dのうち、誤った記述を含まずに、正しい記述のみをすべて選んでいるものはア～エのうちどれか。

- a. 紛失した旅行者のデジタルカメラ
- b. 盗難にあった旅行者の航空券
- c. 置き忘れた旅行者のサングラス
- d. 盗難にあった旅行者の腕時計

ア. a. b. c イ. a. c. d ウ. b. c. d エ. a. b. c. d

(16) 標準旅行業約款(手配旅行契約の部)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。(企画手配旅行契約を除く。)

- ア. 旅行業者は、運送サービス又は宿泊サービスの手配のみを目的とする手配旅行契約であって旅行代金と引換えに当該旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するものについては、口頭による申込みを受け付けることができる。
- イ. 旅行業者は、書面による特約をもって、申込金の支払を受けることなく、契約の締結の承諾のみにより手配旅行契約を成立させることができるが、この場合において、契約の成立時期は、旅行業者が申込書を受理した時としなければならない。
- ウ. 旅行業者は、当該旅行業者が手配するすべての旅行サービスについて乗車券類、宿泊券その他の旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を旅行者に交付するときは、契約書面を交付しないことがある。
- エ. 「旅行代金」とは、旅行業者が旅行サービスを手配するために、運賃、宿泊料その他の運送・宿泊機関等に対して支払う費用及び当該旅行業者所定の旅行業務取扱料金(変更手続料金及び取消手続料金を除く。)をいう。

(17) 標準旅行業約款(手配旅行契約の部)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。(企画手配旅行契約を除く。)

- ア. 旅行開始前において、利用する宿泊料金が改訂されたことにより、旅行代金に変動が生じた場合、旅行業者は旅行代金を変更することはできない。
- イ. 旅行者は、いつでも手配旅行契約の全部を解除することができるが、この場合において、旅行者は、既に旅行者が提供を受けた旅行サービスの対価として、又はいまだ提供を受けていない旅行サービスに係る取消料、違約料その他の運送・宿泊機関等に対して既に支払い、又はこれから支払う費用を負担するほか、旅行業者に対し、当該旅行業者所定の取消手続料金及び当該旅行業者が得るはずであった旅行業務取扱料金を支払わなければならない。
- ウ. 旅行者が旅行業者に対し、旅行サービスの内容を変更するよう求めた場合、旅行業者は、常にその求めに応じなければならない。
- エ. 旅行業者は、旅行者が所定の期日までに旅行代金を支払わないときは、契約を解除することができるが、旅行業者は旅行者に旅行業務取扱料金を請求することはできない。

(18) 標準旅行業約款(手配旅行契約の部)「企画手配旅行契約」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．旅行業者は、契約の成立後速やかに、旅行者に、契約書面を交付する。ただし、旅行業者が手配するすべての旅行サービスについて乗車券類、宿泊券その他の旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するときは、当該契約書面を交付しないことがある。
- イ．旅行業者は、契約の履行に当たって、旅行業者の責任が生じるか否かを問わず、旅行者が旅行参加中に被った携帯品の一定の損害について、主催旅行契約の部別紙特別補償規程に定めるところにより携帯品損害補償金を支払わなければならない。
- ウ．旅行業者が、善良な管理者の注意をもって旅行サービスの手配をしたときは、満員、休業等の事由により、運送・宿泊機関等との間で旅行サービスの提供をする契約を締結できなかった場合であっても、旅行者は旅行業者に所定の旅行業務取扱料金を支払わなければならない。
- エ．旅行業者が、旅行者に企画書面を交付したときは、旅行者は、企画書面に記載した期日までに企画の承諾又は不承諾の旨を当該旅行業者に対し通知しなければならない。

(19) 標準旅行業約款(手配旅行契約の部)「包括料金特約を結ぶ企画手配旅行契約」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア．旅行者が旅行開始前の旅行業者が定める期日までに旅行代金を支払わないときは、旅行業者は、契約を解除することができ、旅行者は、当該支払期日の翌日に契約を解除した場合の所定の取消料に相当する額の違約料を旅行業者に支払わなければならない。
- イ．利用する運送・宿泊機関等の運賃・料金の改訂に伴い包括料金を増額するときは、旅行業者は、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって15日目に当たる日より前に、旅行者にその旨を通知しなければならない。
- ウ．旅行業者は、企画手配旅行契約について、旅行代金をその内訳を明示することなく一定額とし、旅行代金の精算をしない包括料金の特約を、旅行者の承諾に基づき口頭により結ぶことができる。
- エ．旅行者が旅行開始前に、旅行者の都合により契約の全部を解除したときは、旅行業者が手配に着手していたか否かを問わず、旅行者は、旅行業者に対し所定の取消料を支払わなければならない。

(20) 標準旅行業約款(旅行相談契約の部)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア．旅行業者は、契約の履行に当たって、故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害発生の日から起算して6箇月以内に当該旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- イ．旅行業者が契約に基づく業務を行ったときは、旅行者は、当該旅行業者に対し、当該旅行業者が定める期日までに、所定の相談料金を支払わなければならない。
- ウ．旅行業者は、契約において、当該旅行業者が作成した旅行の計画に記載した運送・宿泊機関等について、実際に手配が可能であることを保証するものではなく、満員等の事由により、運送・宿泊機関等との間で当該機関が提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供をする契約を締結できなかったとしても、当該旅行業者はその責任を負うものではない。
- エ．旅行業者と契約を締結しようとする旅行者は、所定の申込書に所定の事項を記入の上、所定の金額の申込金とともに、旅行業者に提出しなければならない。

2. 次の記述は、JR旅客営業規則について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。
(4点×1問)

- ア. 団体乗車券は、使用開始後にあらかじめ係員の承諾を得て、1回に限って区間変更、指定券変更又は乗車列車等の変更をすることができる。ただし、これらの変更は、輸送上の支障がない場合に限り取り扱い、また、指定券に関する変更については、原団体乗車券に表示された列車等が乗車船駅を出発する時刻の2時間前までに申し出があった場合に限り取り扱う。
- イ. 旅客は、旅客運賃・料金について2以上の割引条件に該当する場合、団体割引による運賃の割引と往復割引による運賃の割引の重複適用の場合を除き、同一の乗車券類について、重複して旅客運賃・料金の割引を請求することはできない。
- ウ. 旅客は、旅行開始前に、普通乗車券が不要となった場合は、その乗車券の券片が入鉄前で、かつ、有効期間内（前売りの乗車券については、有効期間の開始日前を含む。）であるときに限り、これを駅に差し出して既に支払った旅客運賃の払いもどしを請求することができる。この場合、旅客は、手数料として、乗車券1枚につき210円を支払うものとする。
- エ. 指定券を必要とする小口団体については、申込人員の9割に相当する人員（1人未満のは数は切り捨てる。）に対して1人につき300円の指定保証金を収受することを条件として、その運送の引受けを行う。ただし、この指定保証金の額は、特に必要と認める場合、これを変更することがある。

3. 次の記述は、一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。
(4点×1問)

- ア. ガイド料、有料道路利用料、航送料、駐車料、乗務員の宿泊費等運送に関連する費用は、契約責任者の負担とする。
- イ. 旅客は、バスの運転者、車掌が運送の安全確保と車内秩序の維持のために行う職務上の指示に従わなければならない。
- ウ. バス会社は、乗車券の券面に記載した配車日時に所定の配車をした場合において、配車時刻から30分を経過しても旅客が乗車についての意思表示をしないときには、当該車両について当該運送契約に係る運送の全部が終了したものとみなす。
- エ. 旅客が不潔な服装をした者であって、他の旅客の迷惑となるおそれのあるときは、バス会社は、運送の引受けを拒絶することができる。

4. 次の記述は、フェリー標準運送約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。
(4点×1問)

- ア. 旅客が乗船券を紛失し、改めて運賃及び料金を支払って乗船券及びその旨の証明書の発行を受けた場合であって、紛失した乗船券を発見したときは、その通用期間の経過後1年以内に限り、上記の証明書を添えて当該フェリー会社に運賃及び料金の払戻しを請求することができる。
- イ. 自動車航送に係る自動車並びにその運転者及び積載貨物の運送の運賃には、自動車の運転者1名が2等船室に乗船する場合の当該運転者の運送の運賃が含まれる。
- ウ. 旅客は、手回り品を3個に限り、船室に持ち込むことができる。ただし、手回り品の大きさ、乗船する船舶の輸送力等を勘案し、当該フェリー会社が支障がないと認めるときは、3個を超えて持ち込むことができる。
- エ. 旅客が使用する車いすは、手回り品として無料である。

5. 次の記述は、国内航空2社（日本航空、全日空）の国内旅客運送約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。（4点×1問）

ア．旅客が病気その他の事由で旅行不可能の場合、または航空会社が予約した座席を提供できない場合もしくは座席を予約できない場合は、航空券または航空引換証の有効期間を延長することができる。ただし、最初に発行した航空券または航空引換証の有効期間満了日より60日を超えて延長することはできない。

イ．手荷物運送における航空会社の責任は、旅客1名につき総額金15万円の額を限度とする。ただし、旅客が運送の開始前に当該手荷物につきそれ以上の価額を申告し、かつ従価料金を支払った場合は、当該申告価額を航空会社の責任限度とするが、この場合においても航空会社の責任は、当該手荷物の実際の価額を超えることはない。

ウ．搭乗日を記載しないで発行した航空引換証の有効期間は、発行日から90日とし、その期間内に航空券と引換えなければならない。また、この有効期間の計算においては、発行日の翌日を起算日とする。

エ．旅客が旅客自身もしくは他の人または航空機もしくは物品に危害を及ぼすおそれのある行為を行う場合、航空会社は、この行為の継続を防止するため必要と認める処置（行為者の拘束を含む。）をとることができる。

6. 次の記述は、モデル宿泊約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。（4点×1問）

ア．ホテル（旅館）は、宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品がホテル（旅館）に置き忘れられていた場合において、所有者が判明しないときは、発見日を含め7日間保管し、その後最寄りの警察署に届ける。

イ．ホテル（旅館）は、宿泊客から宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められたときは、宿泊契約を解除することができる。この場合、ホテル（旅館）は、宿泊客がいまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金を収受することができない。

ウ．宿泊客は、宿泊料金等の支払いを宿泊券により行おうとするときは、あらかじめ、宿泊日当日、ホテル（旅館）のフロントにおける登録時に当該宿泊券を呈示しなければならない。

エ．宿泊客が、ホテル（旅館）内に持込んだ貴重品であってフロントに預けなかったものについて、滅失、毀損等の損害が生じたときは、当該ホテル（旅館）の故意又は過失によるものであっても、当該ホテル（旅館）は、その損害を賠償する責任を負わない。

資料

J R

< 運賃（距離） >

小浜駅 — 敦賀駅	営業キロ	49.5km
（地方交通線）	換算キロ	54.5km
敦賀駅 — 米原駅	営業キロ	45.9km
米原駅 — 新富士駅	営業キロ	299.7km
熱海駅 — 米原駅	営業キロ	341.3km

運賃表

381～400km	6,300円
401～420km	6,620円
421～440km	6,830円
441～460km	7,140円

< 料金 >

・新幹線（こだま号）指定席特急料金（通常期）

米原駅 — 新富士駅	3,760円
熱海駅 — 米原駅	4,490円

・在来線A特急料金表（通常期指定席特急料金）

50kmまで	1,240円
100kmまで	1,660円
150kmまで	2,290円

貸切バス

4日間の走行距離	440km
待機時間	12時間（この中には、宿泊待機の超過時間は含まれていない。）
回送距離	45km

キロ制運賃（1キロ当たり）	
100kmまで	600円
101km～300kmまで	490円
301km～	360円

宿泊待機料金（1泊につき）	26,000円
時間待機料金（1時間につき）	6,000円
回送料金（1キロにつき）100kmまで	380円

上記の運賃料金は消費税を含む。また、計算に当たってガイド料、有料道路利用料金、駐車料、乗務員の宿泊費等関連費用は考えないものとする。

宿泊（下田温泉）

基本宿泊料（1泊2食付、1人当たり）	13,000円
追加料理飲物代（夕食時）	73,500円
入湯税（1人当たり）	150円

上記には、サービス料（10%）は含まれていない。また、入湯税以外の諸税は含まれていない。

〔設 問〕

行程及び資料に基づき、次の設問について該当する答を1つ選びなさい。

(5点×4問)

(1) JR区間で、32名分の団体旅客割引運賃の算出方法で正しいものはどれか。

- ア . 49.5 + 45.9 + 299.7 = 395.1 (運賃) 6,300 -----
 341.3 + 45.9 + 49.5 = 436.7 (運賃) 6,830 -----

 (+) × (1 - 0.15) = 11,160.5 は数整理 11,160 -----
× 31 合計 345,960円
- イ . 54.5 + 45.9 + 299.7 = 400.1 (運賃) 6,620 -----
 341.3 + 45.9 + 54.5 = 441.7 (運賃) 7,140 -----

 (+) × (1 - 0.15) = 11,696 は数整理 11,690 -----
× 31 合計 362,390円
- ウ . 49.5 + 45.9 + 299.7 = 395.1 (運賃) 6,300 -----
 341.3 + 45.9 + 49.5 = 436.7 (運賃) 6,830 -----
 × (1 - 0.1) = 5,670 -----

 × (1 - 0.15) = 5,805.5 は数整理 5,800 -----
(+) × 32 合計 367,040円
- エ . 54.5 + 45.9 + 299.7 = 400.1 (運賃) 6,620 -----
 341.3 + 45.9 + 54.5 = 441.7 (運賃) 7,140 -----

 × (1 - 0.1) = 5,958 は数整理 5,950 -----
 × (1 - 0.15) = 6,069 は数整理 6,060 -----
(+) × 32 合計 384,320円

(2) JR区間で、32名分の料金の算出方法で正しいものはどれか。

ア . $1,240 \div 2 = 620$
 $3,760$
 $4,490 - 200 = 4,290$
 $(1,240 - 200) \div 2 = 520$
(+ + +) \times 32 合計 294,080円

イ . $(1,240 + 200) \div 2 = 720$
 $3,760 + 200 = 3,960$
 $4,490 - 200 = 4,290$
 $(1,240 - 200) \div 2 = 520$
(+ + +) \times 31 合計 294,190円

ウ . $(1,240 + 200) \div 2 = 720$
 $3,760 + 200 = 3,960$
 $4,490 + 200 = 4,690$
 $(1,240 + 200) \div 2 = 720$
(+ + +) \times 31 合計 312,790円

エ . $(1,240 + 200) \div 2 = 720$
 $3,760 + 200 = 3,960$
 $4,490$
 $1,240 \div 2 = 620$
(+ + +) \times 32 合計 313,280円

(3) 貸切バス（新富士駅から熱海駅まで、3泊4日）の運賃、料金（消費税を含む。）の算出方法で正しいものはどれか。

ア . $360 \times 440 = 158,400$
 $(26,000 \times 3) + (6,000 \times 12) = 150,000$
 $380 \times 45 = 17,100$
+ + 合計 325,500円

イ . $360 \times 440 = 158,400$
 $(26,000 \times 3) + (6,000 \times 17) = 180,000$
 $380 \times 45 = 17,100$
+ + 合計 355,500円

ウ . $(600 \times 100) + (490 \times 200) + (360 \times 140) = 208,400$
 $(26,000 \times 3) + (6,000 \times 16) = 174,000$
 $380 \times (45 - 20) = 9,500$
+ + 合計 391,900円

エ . $(600 \times 100) + (490 \times 200) + (360 \times 140) = 208,400$
 $(26,000 \times 3) + (6,000 \times 17) = 180,000$
 $380 \times (45 - 20) = 9,500$
(+ +) \times 1.05 合計 417,795円

(4) 3日目の宿泊地、下田温泉における32名分の諸税を含めた宿泊料金、追加飲食料金等の算出方法で正しいものはどれか。(消費税について、計算上生じたは数の1円未満は四捨五入とする。)
 (注) モデル宿泊約款によるものとする。

ア .{ 13,000 + (13,000 × 0.1) } × 32 = 457,600 -----
 73,500 -----
 (+) × 0.05 = 26,555 -----
 150 × 32 = 4,800 -----
 (+ + +) 合計 562,455円

イ .{ 13,000 + (13,000 × 0.1) } × 32 = 457,600 -----
 73,500 -----
 150 × 32 = 4,800 -----
 (+ +) × 0.05 = 26,795 -----
 (+ + +) 合計 562,695円

ウ .{ 13,000 + (13,000 × 0.1) } × 32 = 457,600 -----
 73,500 + (73,500 × 0.1) = 80,850 -----
 (+) × 0.05 = 26,922.5 (四捨五入) 26,923 -----
 150 × 32 = 4,800 -----
 (+ + +) 合計 570,173円

エ .{ 13,000 + (13,000 × 0.1) } × 32 = 457,600 -----
 73,500 + (73,500 × 0.1) = 80,850 -----
 150 × 32 = 4,800 -----
 (+ +) × 0.05 = 27,162.5 (四捨五入) 27,163 -----
 (+ + +) 合計 570,413円

2. 次の各設問について該当する答をア～エのうちから1つ選びなさい。

(3点×5問)

- (1) ある団体の幹事(契約責任者)が、7月1日に旅行業者を訪れて旅行の手配を相談したところ、申込金の支払いはなしで手配旅行契約を締結しますとの説明があったので、申込書のみを翌日提出した。そして、旅行業者の外務員が7月3日に上記説明を記載した契約書面を幹事の元へ届けた。その後、幹事は団体構成者から旅行代金を集めて7月25日に旅行業者に支払った。この場合の契約成立日はいつになるか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 7月1日 イ. 7月2日 ウ. 7月3日 エ. 7月25日

- (2) 旅行業者に9月1日に主催旅行を電話で予約をし、旅行業者の指示に従い旅行者が9月2日に申込書と申込金を当該旅行業者に郵送したところ、9月3日に到着した旨の連絡を9月4日に旅行業者から受けた。この場合、主催旅行の契約成立日はいつになるか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 9月1日 イ. 9月2日 ウ. 9月3日 エ. 9月4日

- (3) 旅行業者は、9月12日出発予定の沖縄旅行(2泊3日)が最少催行人員に達しないので、旅行を中止するときには、遅くともいつまでにその旨を旅行者に通知していなければならないか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 8月28日 イ. 8月29日 ウ. 8月30日 エ. 8月31日

- (4) 親族旅行を計画して旅行業者を訪ねました。親族旅行の代表者として窓口を訪れた大学生の私(21歳)が契約責任者ということで、いろいろ話を聞き、家に帰って家族に報告しました。

次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 契約責任者である私は、手配契約の締結に関する一切の代理権を有していて、旅行業者は、旅行業務に関する取引を私との間で行うとのことです。

イ. 契約責任者である私は、旅行業者が定める日までに、旅行参加者の名簿を提出するか、または旅行参加者の人数を旅行業者に通知しなければならないとのことです。

ウ. 参加者数の増加の申出があったときは、旅行業者は、いかなる場合もこれに応じられないとのことです。

エ. 旅行業者は、契約責任者である私が都合で参加できないときは、事前に私が選任した旅行参加者である父親を契約責任者としてみなしてくれるとのことです。

(5) 旅行者からの国内航空2社(日本航空、全日空)の運賃に関する次の質問に対する答として正しいものはどれか。

(質問) 夫婦と子供3人(子供の年齢はそれぞれ2歳、3歳、5歳であり、3歳と5歳の子供は座席を使用)の家族が航空機を利用する場合、運賃の支払いはどのようになりますか。

- ア. 子供1人は無賃となり、大人2人分と小児2人分の運賃を支払うこととなります。
- イ. 子供3人は座席を使用しても無賃となりますので、大人2人分の運賃を支払うこととなります。
- ウ. 子供3人は、すべて小児運賃が必要となりますので、大人2人分と小児3人分の運賃が必要となります。
- エ. 子供1人は小児運賃が必要となりますが他の2人の子供は無賃となりますので、大人2人分と小児1人分の運賃が必要となります。

3. JRに関する次の各設問について該当する答をア～エのうちから1つ選びなさい。(3点×5問)

(1) 次の記述は、乗車券の取扱いについて述べたものである。誤っているものはどれか。

- ア. 5月31日に出発する新幹線の指定券は、5月1日から発売する。
- イ. 101キロメートル以上600キロメートルまでの片道普通乗車券の有効期間は3日間である。
- ウ. 期間を計算する場合は、その初日については時間の長短にかかわらず、1日として計算する。
- エ. 片道の営業キロが100キロメートルまでの普通乗車券を使用する場合は途中下車できない。

(2) 次の記述は、運賃・料金の取扱いについて述べたものである。正しいものはどれか。

- ア. 東海道・山陽新幹線の「のぞみ」の自由席に乗車する場合の特急料金は、通常期の「のぞみ」の指定席特急料金の510円引きで同年同額である。この場合の特急券の有効期間は2日間である。
- イ. 小児の寝台料金及びグリーン料金は、大人の半額である。
- ウ. 幼児3人が大人の乗車券所持者1人に同伴されて旅行する場合は、幼児のうち1人は無賃であるが2人は小児とみなし小児の旅客運賃が必要である。
- エ. 訪日観光団体に対して発売する団体乗車券の割引率は、鉄道及び航路とも同年1割5分引きとなる。

(3) JRを利用した次の～の各行程について、特急料金の乗継割引の適用に関する記述のうち正しいものはどれか。(いずれも最初の列車の乗車日に乗り継ぐものとする。)

東京駅 - 新幹線「のぞみ」 - 岡山駅 - 在来線特急「しおかぜ」 - 松山駅
松山駅 - 在来線特急「宇和海」 - 宇和島駅

- ア.「しおかぜ」には適用されるが、「宇和海」には適用されない。
- イ.「宇和海」には適用されるが、「しおかぜ」には適用されない。
- ウ.岡山～宇和島間通して「しおかぜ」にも「宇和海」にも適用される。
- エ.「しおかぜ」にも「宇和海」にも適用されない。

秋田駅 - 在来線特急「かもしか」 - 青森駅 - 在来線特急「スーパー白鳥」 - 函館駅
指定席を利用 指定席を利用
函館駅 - 在来線特急「北斗」 - 札幌駅 - 在来線特急「ライラック」 - 旭川駅
指定席を利用 自由席を利用

- ア.「スーパー白鳥」には適用されるが、「北斗」と「ライラック」には適用されない。
- イ.「スーパー白鳥」と「北斗」に適用され、「ライラック」には適用されない。
- ウ.「北斗」には適用されるが、「スーパー白鳥」と「ライラック」には適用されない。
- エ.「スーパー白鳥」にも「北斗」にも「ライラック」にも適用される。

下呂駅 - 在来線特急「(ワイドビュー)ひだ」 - 名古屋駅 - 新幹線「のぞみ」 - 東京駅
営業キロ118.6km
東京駅 - 在来線特急「ビューわかしお」 - 安房鴨川駅
営業キロ132.5km

- ア.「ビューわかしお」には適用されるが、「(ワイドビュー)ひだ」には適用されない。
- イ.「(ワイドビュー)ひだ」には適用されるが、「ビューわかしお」には適用されない。
- ウ.「(ワイドビュー)ひだ」にも「ビューわかしお」にも適用される。
- エ.「(ワイドビュー)ひだ」にも「ビューわかしお」にも適用されない。

4. 次の各設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

(2点×8問)

(1) 次の に該当する温泉名を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

は、妙高山中腹に位置する温泉地であり、緑深い自然に包まれ、野尻湖を望む位置にある。冬はスキー客で賑わう。

は、クスリサンベツ川沿いの山あい位置する北海道の代表的な温泉地であり、支笏洞爺国立公園の一中心地である。また、地獄谷から立ち上る白煙は壮観である。

は、城下町松本の奥座敷として知られ、松本藩の御殿湯となっていた歴史のある温泉地であり、北アルプスの眺望も良い。

は、浜名湖の東北部に突き出した庄内半島に湧く温泉地であり、温泉街から対岸にある大草山の山頂まで湖上ロープウェイがかけられている。また、庄内半島では「浜名湖花博」が開催されている。

〔語群〕

ア．雲仙温泉	イ．蔵王温泉	ウ．有馬温泉	エ．定山渓温泉	オ．浅間温泉
カ．登別温泉	キ．赤引温泉	ク．黒湯温泉	ケ．宇奈月温泉	コ．赤倉温泉
サ．大鰐温泉	シ．指宿温泉	ス．白浜温泉	セ．城崎温泉	ソ．館山寺温泉

(2) 次の ~ の温泉名はJRの駅名となっているものである。各駅のある路線名を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

和倉温泉

武雄温泉

湯谷温泉

浅虫温泉

〔語群〕

ア．山陽本線	イ．中央本線	ウ．佐世保線	エ．東北本線	オ．奥羽本線
カ．七尾線	キ．鹿児島本線	ク．山陰本線	ケ．高山本線	コ．陸羽東線
サ．肥薩線	シ．北陸本線	ス．飯山線	セ．飯田線	ソ．山口線

5. 次の に該当する国立公園名を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。(2点×4問)

- (1) は、リアス式の海岸と九十九島から平戸島、五島列島など大小400にもおよぶ島々の景観が特徴の海の公園である。また、島々には断崖地形が多く、暖流に沿うため暖地性植物に富み、かつ隠れキリシタンの伝説的遺跡も多い。
- (2) は、北アルプスの白馬岳、立山、槍ヶ岳、穂高岳、乗鞍岳などの山々が連なり、黒部川や梓川などの河川が作る渓谷が美しい山岳公園である。また、弥陀ヶ原や五色ヶ原などの高原は、夏のシーズンには高山植物が咲き乱れ、かつ、天然記念物のライチョウの重要な生息地ともなっている。
- (3) は、久慈海岸から気仙沼湾までの海岸沿いに南北約180kmに渡る国立公園で、北側は隆起海岸による高さ50～180mに及ぶ断崖と岩礁景観、南側は典型的なリアス式海岸である。ウミネコ、オオミズナギドリなど海鳥の繁殖地になっている。
- (4) は、小豆島を始め約3000にも及ぶ島々が点在し、渋川海岸など白い砂浜に松の緑が映える浜辺が各所に見られる。棚田に見られるように人の生活と自然が一体となった文化的景観も特徴のひとつである。

〔語群〕

- | | | |
|----------------|------------|--------------|
| ア．知床国立公園 | イ．瀬戸内海国立公園 | ウ．西表国立公園 |
| エ．富士箱根伊豆国立公園 | オ．陸中海岸国立公園 | カ．山陰海岸国立公園 |
| キ．伊勢志摩国立公園 | ク．西海国立公園 | ケ．十和田八幡平国立公園 |
| コ．利尻礼文サロベツ国立公園 | サ．小笠原国立公園 | シ．中部山岳国立公園 |

6. 次の各設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。(2点×2問)

(1) 次の山とその別称が正しく、かつ、観光地との組み合わせが同じ都道府県にあるものはどれか。

- | | | | | |
|--------|---|------|---|------|
| ア．昭和新山 | — | 蝦夷富士 | — | 天人峡 |
| イ．岩手山 | — | 津軽富士 | — | 猊鼻溪 |
| ウ．大山 | — | 伯耆富士 | — | 隠岐諸島 |
| エ．開聞岳 | — | 薩摩富士 | — | 長崎鼻 |

(2) 次の半島と岬と観光地の組み合わせのうち、すべてが同じ都道府県にあるものはどれか。

- | | | | | |
|--------|---|-----|---|------|
| ア．男鹿半島 | — | 入道崎 | — | 寒風山 |
| イ．志摩半島 | — | 大王崎 | — | 保津峡 |
| ウ．伊豆半島 | — | 野島崎 | — | 浄蓮の滝 |
| エ．根室半島 | — | 尻屋崎 | — | 風蓮湖 |

7. 次の に該当する答を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。 (2点×2問)

(1) は、庄川をせきとめてダムが造られた際の人造湖であり、湖畔の展望台にある
庄川桜は樹齢450年余りともいわれている。また、湖の西岸の白川街道は、世界遺産に登録されて
いる白川郷に通じている。

〔語群〕 ア．御母衣湖 イ．能取湖 ウ．黒部湖 エ．桧原湖

(2) は、「ジャパンフローラ2000(花博)」が開催された島であり、島の南西岸に
ある慶野松原は、島内随一の白砂青松の海岸である。

〔語群〕 ア．八丈島 イ．佐渡島 ウ．淡路島 エ．青海島

8. 次の記述に該当するものを語群からそれぞれ1つ選びなさい。 (2点×4問)

(1) 毛利輝元により慶長9年(1604年)に築城された城であり、指月山の麓に位置しその山名をとっ
て、別称「指月城」と呼ばれていた。現在は本丸跡の一部が指月公園となっており、桜の名所とし
ても有名である。

〔語群〕 ア．福山城 イ．岩国城 ウ．広島城 エ．萩城

(2) 松尾芭蕉が『奥の細道』で詠んだ「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」の俳句で知られ、俗に「山寺」
と呼ばれている。

〔語群〕 ア．立石寺 イ．毛越寺 ウ．長勝寺 エ．瑞巖寺

(3) 大分県に所在し、全国の八幡宮の総本宮であり、社殿は「八幡造」と呼ばれる建築様式の代表的
な建造物で国宝建造物に指定されている。「けんか祭り」の別名でも知られる「夏越大祭」が有名
である。

〔語群〕 ア．鵜戸神宮 イ．宇佐神宮 ウ．霧島神宮 エ．英彦山神宮

(4) 島根県安来市に所在し、四季折々の美をあらゆる日本庭園と横山大観をはじめとする近代日本画
と陶芸等のコレクションで知られている。

〔語群〕 ア．大原美術館 イ．本間美術館 ウ．足立美術館 エ．碌山美術館

9. 次の庭園に関する記述について誤っているものを1つ選びなさい。(2点×1問)

- ア.『偕楽園』は、徳川齊昭によって造られた「民と偕に楽しむ」の意味から名付けられた庭園であり、「梅まつり」が有名である。また、園内には好文亭がある。
- イ.『仙巖園』は、島津光久の代に別邸として構えたのが始まりであり、錦江湾を池に、桜島を築山に見立てた雄大な庭園である。別名「磯庭園」とも呼ばれる。
- ウ.『後樂園』は、松平定信が六つのすぐれた景観、「六勝」を備えていることから命名したことで知られる回遊林泉式庭園であり、四季それぞれに美しい園内には成巽閣がある。
- エ.『栗林公園』は、高松藩の歴代藩主が歳月をかけて作りあげた洋式の北庭と日本式の南庭とに分かれる回遊式庭園であり、園内には掬月亭がある。

10. 次の各設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。(2点×3問)

(1) 次の祭り・行事とその開催時期の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

- ア. 三社祭(東京都) — 7月
- イ. 花笠まつり(山形県) — 8月
- ウ. おわら風の盆(富山県) — 9月
- エ. 唐津くんち(佐賀県) — 11月

(2) 次の陶磁器と温泉地の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

- ア. 越前焼 — 芦原温泉
- イ. 信楽焼 — 雄琴温泉
- ウ. 砥部焼 — 鈍川温泉
- エ. 益子焼 — 水上温泉

(3) 次の民芸品・織物と観光地の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

- ア. 紅型 — 竹富島
- イ. 三春張り子 — 三方五湖
- ウ. 結城紬 — 筑波山
- エ. 小千谷ちぢみ — 瓢湖

11. 次のa～dは、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に登録された世界遺産である。登録された順に矢印で示されているのは、ア～エのうちどれか。(2点×1問)

- a. 白川郷・五箇山の合掌造り集落
- b. 紀伊山地の霊場と参詣道
- c. 白神山地
- d. 日光の社寺

- ア. a d b c イ. a d c b ウ. c a d b エ. c d a b

- 注意 1 . P D F ファイルの性質上、実際の試験問題と体裁、文字等の表記が異なる部分があります。
- 注意 2 . この試験問題は平成16年 9 月12日現在で作成されたので、現行の諸事情と異なる部分がある得ます。
- 注意 3 . 営利・非営利を問わず、本データを使用して発生したトラブル等に関して、当協会は一切の責任を負いません。

社団法人 全国旅行業協会

Copyright (c)2004 All Nippon Travel Agents Association., All rights reserved.